

令和7（2025）年度
服飾奨学金事業
生活状況報告（中間報告）



1. はじめに

公益財団法人 VICTORY FOUNDATION では、服飾・ファッション分野において、将来社会に貢献し得る人材の育成を目的として「服飾奨学生事業」を実施しております。

令和7（2025）年度は、全国の大学・短期大学・専門学校等に在籍する学生を奨学生として採択し、それぞれが専門分野における学修や制作活動に主体的に取り組んでいます。

本報告書は、奨学生から提出された中間報告書の内容を基に、学修・制作の状況や学生生活の様子、奨学生支援による効果等を取りまとめ、当財団ホームページにて広く公表するものです。

2. 学生生活の状況（学修・制作活動・課外活動等）

奨学生の多くは、服飾デザイン、パターンメイキング、縫製技術、素材研究、ファッションビジネス等、それぞれの専門分野において意欲的に学修・制作活動に取り組んでいます。

日々の講義や実習に加え、課題制作、ポートフォリオ作成、展示会やファッションショーへの参加など、実践的な学びを重ねている様子が報告されています。また、学外コンペティションへの応募や、企業・ブランドと連携したプロジェクトに挑戦する奨学生も見られます。

さらに、サークル活動や学内イベントの運営、地域イベントへの参加などを通じて、表現力や協調性を高めている奨学生も多く、学業と学生生活の両立を図りながら充実した日々を送っていることがうかがえます。

奨学生の支援により、アルバイト時間を抑え、学修や制作により多くの時間を充てることができたという声も多く寄せられています。

3. 活動成果と成長の実感

中間報告では、「技術面の向上を実感している」「自分の表現したいテーマが明確になってきた」といった成長を実感する声が多く見られました。

素材選定や構造理解、コンセプト設計への意識が高まり、作品の完成度や表現力が向上したとの報告もあります。また、発表や講評の機会を通じて、第三者の視点から助言を受けることで、自身の課題を客観的に捉える姿勢が育まれている点も特徴的です。

これらの経験を通じて、奨学生一人ひとりが専門性を深めながら、将来に向けた確かな手応えを感じていることがうかがえます。

4. 奨学生の声（抜粋）

奨学生から提出された中間報告書には、学修・制作活動への前向きな姿勢とと

もに、当財団の支援に対する率直な声が多く寄せられました。以下は、その一部を抜粋したものです。

- ・「奨学金のおかげでアルバイトの時間を減らすことができ、作品制作や課題にじっくり向き合えるようになりました。」
- ・「材料費や制作に必要な道具の購入に充てることができ、妥協せずに作品を完成させることができました。学びの質が大きく向上したと感じています。」
- ・「経済的な不安が軽減され、将来の進路について前向きに考えられるようになりました。」
- ・「服飾分野で学び続けることへの自信につながりました。今後は社会に価値を提供できる人材を目指して努力していきたいです。」

これらの声から、奨学金支援が奨学生の学修環境の改善だけでなく、精神的な安心感や将来への意欲の向上にも寄与していることがうかがえます。

5. 支援への感謝と今後への展望

奨学生の多くが、当財団の奨学金支援に対し深い感謝の意を示しています。「経済的支援があることで、学業や制作に集中できる環境が整った」「将来に向けた選択肢が広がった」といった声が多く寄せられました。

今後の進路としては、ファッショング・アパレル業界での就職、専門性を高めるための進学、さらには独立や起業を目指すなど、多様な目標が示されています。いずれの奨学生も、服飾分野を通じて社会に貢献したいという強い意欲を持っていることが印象的です。

6. 総括

中間時点において、奨学生はそれぞれの専門分野で主体的に学び、着実に成果を積み重ねています。

当財団の服飾奨学金事業は、単なる経済的支援にとどまらず、奨学生が将来に向けて挑戦し続けるための重要な基盤となっています。

今後も公益財団法人 VICTORY FOUNDATION は、服飾分野の未来を担う人材の育成を通じて、文化および産業の発展に貢献してまいります。

以上